

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	包括支援センター運営事業	会計	一般会計	事業No.	214	施策順No.	35-025
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-10-13		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	21	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	65歳以上の高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65歳以上の高齢者数(いいた地域包括支援センター担当地区(橋北、橋南、羽場、丸山、東野、座光寺、上郷)内、各年度4月1日現在、23年度は推定)	10539	10634	10863	10951	10983	
	意図	高齢者が安心して暮らすことができるように支援する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	いいた地域包括支援センターでの相談延人員	761	1496	2471	3000	2510	3000	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	いいた地域包括支援センターでの相談件数は、着実に増加してきており、地域包括支援センターを地域の中でさらに周知することにより、相談の件数も増加することが見込まれる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>基幹包括支援センター(介護高齢課の介護予防及び相談部門)といいた地域包括支援センター(旧市5地区と上郷・座光寺地区を担当。介護予防マネジメント、総合相談・支援、包括的・継続的マネジメントを実施)の合同事務所を「ほりばた長寿支援センター」として設置し、連携して高齢者の支援を行う。 ほりばた長寿支援センターを起点として、高齢者が地域の中で自立して安心して暮らしていけるための仕組みづくりに多様な主体との連携を基に取り組む。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 基幹包括支援センターと地域包括支援センターが連携して高齢者の支援を実施 2 ほりばた長寿支援センターを起点として、高齢者が地域の中で自立して安心して暮らしていけるための仕組みづくりを多様な主体との連携により検討</p>	<p>1 いいた地域包括支援センターでの相談延人員 2 いいた地域包括支援センターと福祉事務所との連絡調整件数 3 多様な主体との協働により取り組んだプロジェクト数</p>	<p>1 2,510件 2 745件 3 2件</p>
23年度実施計画	<p>1 基幹包括支援センターと地域包括支援センターが連携して高齢者の支援を実施 2 ほりばた長寿支援センターを起点として、高齢者が地域の中で自立して安心して暮らしていけるための仕組みづくりを多様な主体との連携により検討し、実施していく。</p>	<p>1 いいた地域包括支援センターでの相談延人員 2 いいた地域包括支援センターと福祉事務所との連絡調整件数 3 多様な主体との協働により取り組んだプロジェクト数</p>	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(国)認知症対策連携強化事業補助金
	国庫支出金			125			
	県支出金						
	起債						
	その他						
一般財源		7,155	6,625	7,012			
計(A)		7,155	6,750	7,012			
正規職員所要時間			900				
臨時職員等所要時間							
人件費計(B)			3,218				
トータルコスト A+B			9,968				

4 事業に対する市民や議会の意見

議会において、地域包括支援センターの円滑な運営について支援するように要望が出ている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせる高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	いいだ地域包括支援センターと基幹包括支援センターが合同事務所において、連携を密にして業務を行うことで、高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための支援に取り組むことができた。ほりばた長寿支援センターに長寿支援担当を配置し、高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための課題の把握と、課題の解決の方策について、多様な主体との連携により検討を開始した。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	高齢者が地域の中で安心して生活していく上での課題を基幹包括支援センターと地域包括支援センターとが連携して把握し、課題の解決のために連携して支援策を検討し、実施することで施策の成果の向上につなげてきた。		
	後期に向けた課題	引き続き地域包括支援センターと基幹包括支援センターが連携を強化して高齢者の支援に取り組む。高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための仕組みづくりを進めるための具体的な検討を、多様な主体に参画を求めて取り組む。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	ほりばた長寿支援センターの運営に係る経費の節減に努めた。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	高齢者全体の支援を目的とした事業であり、特定の受益者に負担を求めることはない。ほりばた長寿支援センターの運営に要する経費は、市と社会福祉協議会で負担を行っている。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①社会福祉協議会、地域包括支援センターを運営し、高齢者の総合的な相談の窓口としての機能を担う、②基幹包括支援センターを設置し、地域包括支援センターと連携して高齢者の支援に当たる。		
	後期に向けた課題	引き続き地域包括支援センターと基幹包括支援センターが連携を強化して高齢者の支援に取り組む。ほりばた長寿支援センターが中心となり、多様な主体に参画を求めて高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための仕組みづくりに具体的に取り組む。		
全体を通じて	4年間の振り返り	いいだ地域包括支援センターと基幹包括支援センターが、ほりばた長寿支援センターにおいて、連携を密にして業務を行うことで、高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための支援に取り組んできた。ほりばた長寿支援センターに長寿支援担当を配置し、高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための課題の把握と、課題の解決の方策について、多様な主体との連携により検討を開始した		
	後期に向けた課題	引き続き地域包括支援センターと基幹包括支援センターが連携を強化することが必要である。ほりばた長寿支援センターを中心に、多様な主体が参画して、高齢者が地域の中で安心して暮らしていくための仕組みづくりにできるところから取り組んでいく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------